

# 「東亜-北米型」の 分布を示す植物

国立科学博物館名誉研究員  
門田 裕一

## 【講師プロフィール】

名前: 門田 裕一(かどた ゆういち)

所属: 国立科学博物館名誉研究員

経歴: 1949年 大阪市生

東京大学大学院理学系研究科修了

理学博士

専攻は植物分類、地理学

分類群ではキンポウゲ科やキク科植物を研究

地域としては、北東アジアや日華区系

(日本～中国～ヒマラヤ)が対象

「東亜—北米型」の分布を示す植物

2022.07.15 (金) 10:00–11:30 国立科学博物館・名誉研究員 門田 裕一

### 1. 日本の植物の分布パターン

植物の分布を調べると、いくつかの類型が浮かび上がってくるのが分かる。これを分布パターンという。日本産維管束植物の分布パターンとしては次のようなものが認められる。

- ・北方型分布＝寒地植物あるいは高山植物
- ・南方型分布＝いわゆる南方系の植物
- ・日本海型分布＝日本の固有植物
- ・ソヤハキ型（太平洋型）分布＝日本固有植物
- ・富士箱根型（フォッサマグナ型）分布

### 2. 「東亜—北米型」分布

#### — Eastern Asian and Eastern North American Disjunctive Distribution

北半球に分布する植物のうちで、ヨーロッパ～アジア中央部にかけての地域に分布せず、近縁な種が東アジアと北アメリカ東部にのみ隔離的に分布するパターン。太平洋を挟んだ、著しい隔離分布の例として知られる。代表的な植物の名前をとり、モクレン型分布とも呼ばれる。その存在自体は19世紀の黒船の時代から知られていた。

### 3. 「東亜—北米型」の分布を示す植物たち

- 「マツ科）ツガ属・トガサワラ属
- （モクレン科）ユリノキ属（現生種は日本に欠）・モクレン属
- （キンポウゲ科）トリカブト属・モミジカラマツ属
- （メギ科）サンカヨウ属
- （ユキノシタ科）チダケサシ属・ズダヤクシュ属
- （マンサク科）マンサク属
- （ツバキ科）ナツツバキ属
- （ウコギ科）ウド属・トチバニンジン属

- （ミズキ科）ミズキ属
  - （スイカズラ科）タニウツギ属
  - （サトイモ科）テンナンショウ属
  - （ビャクブ科）ナベワリ属
- など約50属がある。

### 4. 「東亜—北米型」の分布を示す動物たち

動物界にも「東亜—北米型」の分布パターンを示すものがある。

- ザトウムシ（節足動物門クモ形綱）、
- トンボ類、チョウ類（節足動物門昆虫綱）、
- ヤスデ類（節足動物門ヤスデ綱）
- カブトガニ類（節足動物門節口綱）
- サンショウウオ類（脊索動物門両生綱）

### 5. 「東亜—北米型」分布パターンの意味

・分布域が東アジアと北アメリカに隔離されていることから、アジア大陸と北アメリカ大陸をつなぐベーリング海が氷期に陸化した『ベーリング陸橋』を経由して移動した、と考えられることがこれまで普通であった。そして、現代でも依然としてそのように考えられることが多い。

▼しかしながら、実際問題として、氷河に覆われた『ベーリング陸橋』を植物や動物たちがどのように渡っていったというのだろうか？荒唐無稽な論議と言わざるを得ない。

・『東亜—北米型の分布パターン』は、第三紀に起源をもつ古い植物群が、その後に出現した氷期から避けるため、気候が温暖な東アジアと北アメリカに遺存的に生育していることを意味しているのではないだろうか？